

広報

かみす

2023年

8/1

No.397

Kamisu public relations



神栖ディスカバリー

特集

夏祭り

復活に込めたそれぞれの思い



Pick up

総合防災訓練を実施します…………… P6

神栖市職員採用試験(第2回)…………… P7

4年ぶりの開催となる「かみす舞っちゃげ祭り」をはじめ、「かみす七夕まつり」「大潮祭」「きらっせ祭り」「かみすみなと祭り」を紹介します。

AR 広報かみすが動き出す
[COCOAR]アプリをダウンロードし表紙にスマートフォンをかざしてください。詳細は15ページ



[COCOAR]



特集

夏祭り

復活に込めたそれぞれの思い

神栖の夏を盛り上げる祭りの数々。新型コロナウイルスの影響で3年間にわたって中止されていましたが、いよいよ今年は4年ぶりの開催が決定するなど、大きく動き始めています。今回は、かみす舞っちゃげ祭りを中心に、祭りの魅力と地元注ぐ熱い思いをお届けします。



かみす舞っちゃげ祭りの目玉である総乱舞。参加チームが入り乱れて舞う姿は、まさに垣根を越えた“舞っちゃげ”そのもの

かみす舞^ぶっちゃげ祭り

9月16日(土)・17日(日)開催

よさこい演舞で一大イベントに急成長

観客の目を釘付けにする、圧巻のよさこい演舞。弾けるような躍動感と一糸乱れぬ協調性、粋で華やかな衣装、迫力ある大旗など、そのすべてに心が沸き立ちます。

かみす舞^ぶっちゃげ祭りが初めて開催されたのは2010年。最初はかみす七夕まつりに合わせて行なわれ、翌年からは神之池緑地で神栖火花大

会と同時開催。その後、神栖中央公園に会場を移してから、土曜の夜空を彩る火花は前夜祭の大きな見どころとなっていました。

市内ではまだ歴史の浅い祭りですが、年々参加者や観客が増え、県外からも大勢の人が集う一大イベントへと成長しました。猛威を振るった新型コロナウイルスの影響で、やむなく中止せざるを得なかった3年間の開催が決定！いよいよ、待ちに待った復活の日を迎えます。

まちづくりへの情熱が原点

ところで、なぜ神栖市でよさこい演

舞が披露されることになったのでしょうか？ 祭りの誕生秘話を実行委員会会長の野口弘行さんに聞きました。

「2008年、たまたま札幌でYOSAKOIソーラン祭りを見たのがきっかけです。神栖市でも他県から大勢の人を呼べる祭りを立ち上げて、まちづくりにつなげたい。そう考え、さっそく現地の実行委員会に思いを伝えました。2年間にわたる交渉が実り、日本一に輝いた札幌市の「夢想^{ゆめぞら}漣えさし」をはじめ4つのトップチームを招待し、第1回かみす舞^ぶっちゃげ祭りが実現したわけです」

野口さんの胸には、まちづくりへの熱い思いがありました。「まっ

げる。経済を潤して地元が活気づけることを目指しています」

「舞^ぶっちゃげ」に込めた思いとは？

次に、祭りの名称に込めた思いを聞きました。

「『ぶ^ぶっちゃげ』は、垣根を越えろ！ という意味です。まず、当時の神栖市は市



野口会長



会場は神栖中央公園。築山の上まで観客が押し寄せる



YOSAKOIソーラン界のトップチーム「夢想漣えさし」(上)と「旭川北の大地」(下)も参加

りの文字の間、に「ちく(地区)」を挟むと「まちづくり」になるでしょ。祭りによって人を動かすことで、地区は発展します。フードコーナーで地元グルメを販売し、市内に宿泊して祭りを楽しんでもらい、神栖市の知名度を上

祭りと高知のよさこい祭りがぶちやげで、流派もスタイルも関係なくステージに上がって踊ってもらおう。その2つの意味を込めました」

その願い通り、かみす舞^ぶっちゃげ祭りは「よさこいとダンスの祭典」という独自の形を確立しています。チアリーディング、フラダンス、ストリートダンスなど、会場中でさまざまなパフォーマンスが繰り広げられ、踊り手と観客がぶちやげ楽しんでいきます。

「よさこい演舞については、北海

道をはじめ、千葉県、三重県、岐阜県など、全国トップレベルの人気チームが集結します。これまで札幌のYOSAKOIソーラン祭りに行かなければ見られなかったスターチームを、地元の神栖で見られるなんて幸せですよ」と胸を張る野口さん。全国各地へと交流の輪が大きく広がっています。

約50店が並ぶフードコーナー

神栖市の知名度を上げるうえで、フードコーナーの役割も重要です。

「実は札幌のYOSAKOIソーラン祭りの飲食ブースで、神栖グルメを提供したことがあります。ピーマンの丸焼きがよく売れて、航空便で1日10箱ずつ取り寄せたほどです。その時に交流があった全国各地のご当地グルメは、かみす舞っちゃげ祭りにも出店してくれています。そういう商品と競い合い、地元の皆さんがもったおいしいもの、



地元はもちろん全国各地のご当地グルメも多数出店

もっと人気が出るものを作ろうと頑張ってくれています。だからフードコーナーも活気が全然違いますよ」神栖中央公園には、約50店舗もの飲食ブースが並びます。テーブルとイスが用意されているので、祭りを鑑賞しながらおいしい味めぐりをゆっくり楽しめるのも魅力です。

中止期間を経て、新たな挑戦へ

2019年の第10回かみす舞っちゃげ祭りには全国から約60チームが集まり、見事なパフォーマンスを披露して大盛況となりました。しかし翌2020年から新型コロナウイルスの影響で中止せざるを得ない状況に。特に昨年は実施に向けていったんは動き出したものの、直前で中止というつらい判断を迫られました。そうした困難な状況の中でも、実行委員会の皆さんは「2023年に開催するなら新しいことに挑戦し、前回以上の祭りにしよう!」と心を一つにして構想を練ってきました。今年がメインステージに大型LEDビジョンを設置し、協賛各



祭り専用トラック（地方車）

社の紹介やCMを放映するほか、サーチライトで華やかにステージを照らします。また、大型モニターを設置した10トントラックも用意。フードコーナーにもモニターを配置し、

ステージの映像を流します。さらに、インターネットでライブ配信もする計画です」

みんなの力で関東一の祭りに

新しい試みが加わり、ますます華やかさを増す、かみす舞っちゃげ祭り。会長の野口さんをはじめ実行委員会の皆さんは、「踊り手みんなが憧れるような舞台を用意し、関東一と呼ばれる祭りにしよう!」と気合十分です。

さらに、安心安全な祭りであることも自慢の一つ。メインステージから、パレードやダンスを披露するストリート、飲食コーナーまですべて神栖中央公園内で完結。救護コーナーや迷子の預かり所、オムツ替え



各チームの旗士による旗の共演



関東一と呼ばれる祭りを目指して4年ぶりに復活

スペースなどを完備し、子ども連れからお年寄りまで、誰もが安心して楽しめるよう運営しています。また、雨天の場合は、かみす防災アリーナでの開催も視野に準備を進めています。

地元の祭りに情熱を注ぐ人たちを、愛情を込めて「祭りバカ」と表現する野口さん。自分もその一人のひと。「かみす舞っちゃげ祭りの実行委員会には、損得勘定抜きでのめり込む仲間たちが集まっています。頭で考えていたら動けないし、一人では何もできません。みんなの力で一つの祭りを作り上げています」

多くの人が集まって地元が元気になる喜びを、踊り手も観客も、今年は存分に味わえそうです。

かみす七夕まつり

8月5日(土)・6日(日)開催

旧暦の七夕前後に、港南通り・すずらん通りで開催される「かみす七夕まつり」。商店会や地区が一体となって続けてきたこの祭りは、今年50回目の節目を迎えます。

七夕のシンボルといえば華やかな飾り。残念ながらコロナ禍の3年間で老朽化が進み、例年のように商店街を彩ることは難しい状況です。そうした中、若いメンバーから「祭りを新しく変えていこう」という前向きな声が上がリ、キッチンカー村などの

新しい試みが予定されています。祭事委員長の伯耆進^{ほろき}さんは、「七夕まつりの魅力は人のふれあい。形が変わっても、



伯耆委員長

地元のつながりや賑わいを維持していく上で、続けることが大事です」と祭りへの思いを語りました。



七夕飾りと通りを練り歩く山車

大潮祭



大潮祭は、波崎地区の氏神である手子后^{てこきき}神社の祭典です。見どころは、鳴り物やあばれ太鼓に先導されて市内を練り歩く^{みこし}神輿。クライマックスには「よーい、

よいやっせい」の掛け声が響き渡り、荒々しく神輿が波打ちます。

コロナ禍では神事のみを執り行ない、地域からは「さみしい」「波崎ではないみたいだ」という声が上がりましたが、今年、7月29日(土)・30日(日)に開催された祭りで神輿も完全復活。手子后神社神職の鈴木伸吾さんは、「祭りは波崎地区の人々の心のよりどころだと思います。地域の皆さんの

思いは強い。祭りが、人と人をつなぐためのきっかけとして続いてほしいです」と祭りや地域への思いを話しました。



かみすみなと祭り

7月の最終土曜・日曜日、大野原中央通りで行なわれる「かみすみなと祭り」。今年は残念ながら中止となりましたが、例年は歩行者天国を山車や神輿が練り歩き、浜松公民館に設営されるステージでは太鼓演奏やま



とい演舞などが披露されます。ジャンケン大会やビンゴゲームを中学生が企画するなど、若い世代も祭りの運営に参加。昭和47年、鹿島港の開港を記念して始まった祭りは、地域住民のふれあいの場として若い世代に受け継がれています。

きらっせ祭り

8月27日(日)開催

波崎海水浴場の周辺で開催される「きらっせ祭り」。メイン会場では地元グルメが楽しめる青空市が開催されるほか、鳴り物や手踊り披露などのイベントも企画されています。「きらっせ」は“どうぞお越してください”という意味。盛りだくさんの催しで来場者を楽しませ、県内外から観光客を呼び寄せる盛大な祭りに成長しています。見どころは、昼から夕方にかけて市内を練り歩く神輿パレードと打ち上げ花火。約5,200発(予定)の花火が波崎海岸の夜空を彩ります。

